

Dear freshers

図書館で探す楽しみ、 見つけるよろこび。

廣森 直子 社会福祉学科講師

私は、図書館には二つの機能があると思っています。一つは“利用目的を満たす”こと、もう一つは“予期せぬ出会いを提供する”ことです。“利用目的を満たす”ことは学生として図書館をいかに使いこなすかという話ですので、先輩たちからの新入生へのメッセージに譲ります。“予期せぬ出会い”は目的の資料を探している過程やなんとなしに本棚を眺めていて、こんな本（情報）がある、と発見することです。たまたま見つけた本のほうがおもしろかったり役立ったりすることもままあります。

自分の学生時代をふりかえってみると、図書館には資料探しや勉強をしに行っていたことも多いですが（今も研究教育活動のため日常的にお世話になっています）、「時間つぶし」でもかなり利用しました。大学生活には「空き時間」というものがあります。そういうとき、私はあまり友人とつるんでいたいタイプではなかったので、一人で時間をつぶせる場所として図書館は最適でした。私は発達科学部という学部に進学しましたが、さほど明確な志望動機もなく、興味関心も拡散していました。大学の講義では学べないことも、図書館の本を漁ることである程度は満たされました。けっこうな時間を自分の専攻とはかかわりのない本や、趣味に近い本、個人では買えそうもない大型本や写真集、画集、図鑑などを眺めて過ごしました。美術、歴史、人類学、建築、博物誌、人体など、当時印象に残った写真や図版は今でも思い出すことがあります。手塚治虫の漫画も図書館でかなり読みました。“図書館を使いこなす”ことはもちろんですが、そういった無為に思える豊かな時間を図書館で過ごしたことは、自分の人生の何かになっているように思います。

さて、皆さんは大学に入って、何か学ぼうと思っていることはありますか。「専門職になる」「就職する」といった出口

に向けての学びの目標もあるでしょうが、皆さんには、ぜひ、そういう就職に直結する学問とは別に、自分が好きだからやりたい学問を何か見つけてほしいと思っています。何かを楽しんで追求していけば、それが結果的に何かを学び、身につけていくことになっていきます。その何かが多様であることが大学の特徴です。

専門職に直結した学びは実学といえます。実学は、学んだことをすぐに生かせる知識や技術ですが、その知識や技術が生かせる環境が変われば役に立たなくなってしまうことがあります。環境が変わってもその環境に適応して生き残っていけるようになるには、その実学を支えるベーシックな学問や教養が必要だと思います。専門領域に閉じこもらず、社会と行き来しながら広い視野で専門知識や技術を自分の中に組み立ててほしいと思います。

皆さんは将来、自分より年上の人と一緒に働き、自分より年上の人を対象にした仕事に就く可能性が高いです。少子高齢社会で医療や福祉の現場で働くとはそういうことです。自分より年上の人たちのことを理解するには、どうしたらよいですか。たとえば高齢者を対象とした老年医学、老年看護学、高齢者福祉論、老年栄養学、老年心理学といった学問領域もありますが、今 80 歳代の人がどのような生活経験をしてきたかは、その世代の人たちが若者であった時代を知ったり、その世代の人たちが書いたものを読んだり、その世代の人が登場する小説を読むほうがよくわかるかもしれません。若いうちは経験がまだ少ないことと、若さゆえの一途さ（思い込み？）もあって、世の中の人々の多様さについての理解が及ばないこともあります。本を通して多様な価値観に触れることは、想像力を豊かにし、人としてのあつみを増してくれると思います。

皆さんは専門職になることをめざしていると思いますが、専門職になれる（なる）かまだ自信がないけれどひとまずの選択として入学した人もいるかもしれません。いろいろと迷いや不安もあるでしょう。そのような自分のなかにある負の感情に向き合い、うまく飼いならすことができるようになることも、大学時代には必要かもしれません。私は若かったころ、「世の中はいろいろと不公平だ」という怒りをも



っていました。阪神淡路大震災を経験したことも影響していたかもしれません。でもそれをうまく説明することもできませんでしたし、きちんと理解することもできてはいませんでした。私はその鬱屈を学問することと言語化してある程度は昇華できたようにも思いますし、未消化のまま自分に残りつづけているものもあると感じています。それがある種の今の自分のエンジンになっています。

また、人生の中の大学生の時期は、これまで身近な存在だった大人たち（家族や学校の先生）と距離を置いて、自分の価値観を見つめる時期でもあります。人は多かれ少なかれ他者から“認められたい”と思っていますが、自分の承認欲求がどんなふうに満たされるのか、客観的にとらえなおしてみしてほしい。まずは自分の置かれた環境、そして自分に何が求められているのかについて考えてみてください。人は自分の立場にふさわしい行動をとろうとすることでその立場にふさわしい能力や考えを身につけていきます。そういったことが自分と他者との関係をとらえなおし、自分なりの価値観を見出すことになっていくと思います。

そして、学業や人間関係に疲れたら休みましょう。そういうとき、図書館はなかなか優しい空間です。利用しようとしてわからないことがあれば司書の方が支援してくれます。用もなくふらっといっても、ほっておいてもらえます。図書館で一人でもぼーっとするのもけっこういいものです。“何も無い時間”を楽しむ余裕をもってください。時間の余白があるほうが“予期せぬ出会い”があるかもしれませんしね。私は最近そんなふうに図書館でのんびり過ごす時間が減ってしまったことを少し寂しく感じています。